

## ポジションに関する取扱いの比較（2020年度と2022年度）

2022.05.01役員会資料

～ ※変更内容が朱書きとなっている。～

ヤング連審判委員長 瀬瀬 茂（東濃VICTORY）

※「7.4.2」等の数字は、ルールの項目です。ルールブックで確認してください。

### 【2020年度】『7.4 ポジション』

### 【2022年度】『7.4 ポジション』

#### 7.4.2 選手の位置関係

#### 7.4.2 選手の位置

7.4.2.1 各バックプレーヤーは、対応するフロントプレーヤーより、センターラインから見て後ろに位置していなければならない。

7.4.2.1 各バックプレーヤーは、対応するフロントプレーヤーより、センターラインから見て後ろに位置していなければならない。

7.4.2.2 フロントプレーヤーとバックプレーヤーは、それぞれ7.4.1に示された順に、横に並んで位置していなければならない。

7.4.2.2 フロントプレーヤーとバックプレーヤーは、それぞれ7.4.1に示された順に、横に並んで位置していなければならない。

7.4.3 選手のポジションは、次のとおりコート面に接している両足の位置により決定され、コントロールされる。

7.4.3 選手のポジションは、次のとおりコート面に接している両足の位置（最後にコート面に接触していた部分）により決定され、コントロールされる。 ※次項参照

7.4.3.1 各フロントプレーヤーは少なくとも片方の足の一部が、対応するバックプレーヤーの両足より、センターラインに近く位置していなければならない。

7.4.3.1 各バックプレーヤーは、対応するフロントプレーヤーと同じ位置にいるか、少なくとも片方の足の一部が対応するフロントプレーヤーの前の足よりセンターラインから遠い位置にいなければならない。

7.4.3.2 ライト（レフト）サイドの各選手は、少なくとも片方の足の一部が、その列のセンターの選手の足よりも、ライト（レフト）のサイドラインに近く位置していなければならない。

7.4.3.2 ライト（レフト）サイドの各選手は、同じ列の他の選手のライト（レフト）側から遠くにある足と同じ位置か、少なくとも片方の足の一部がライト（レフト）のサイドラインに近い位置に居なければならない。

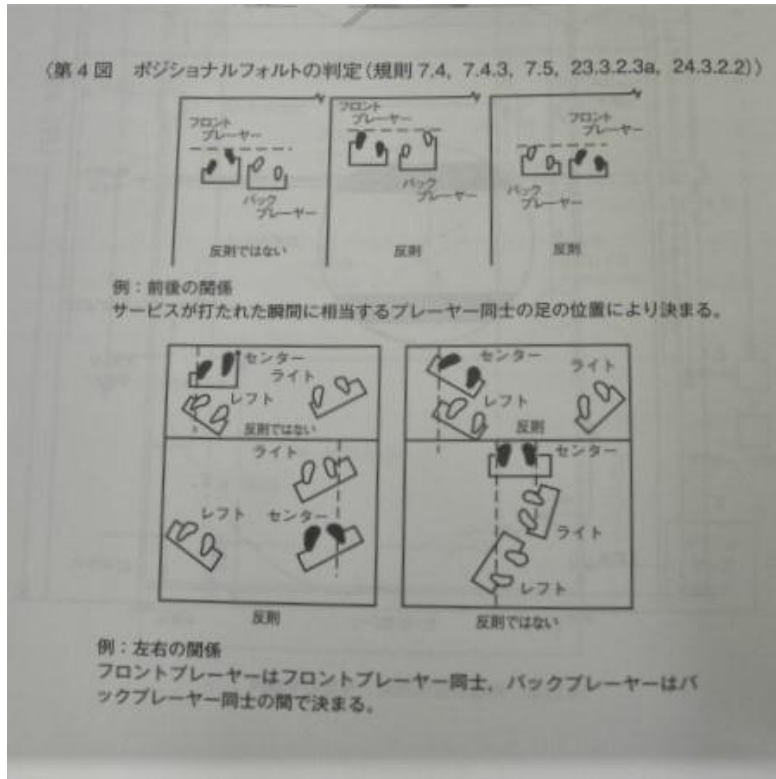
**ポジションの取り扱い以外での留意事項**（日本バレーボール協会審判規則委員会「2022年度 ルールの取り扱いについて」参照）

5 リベロがチームキャプテンにもゲームキャプテンにもなることができる。

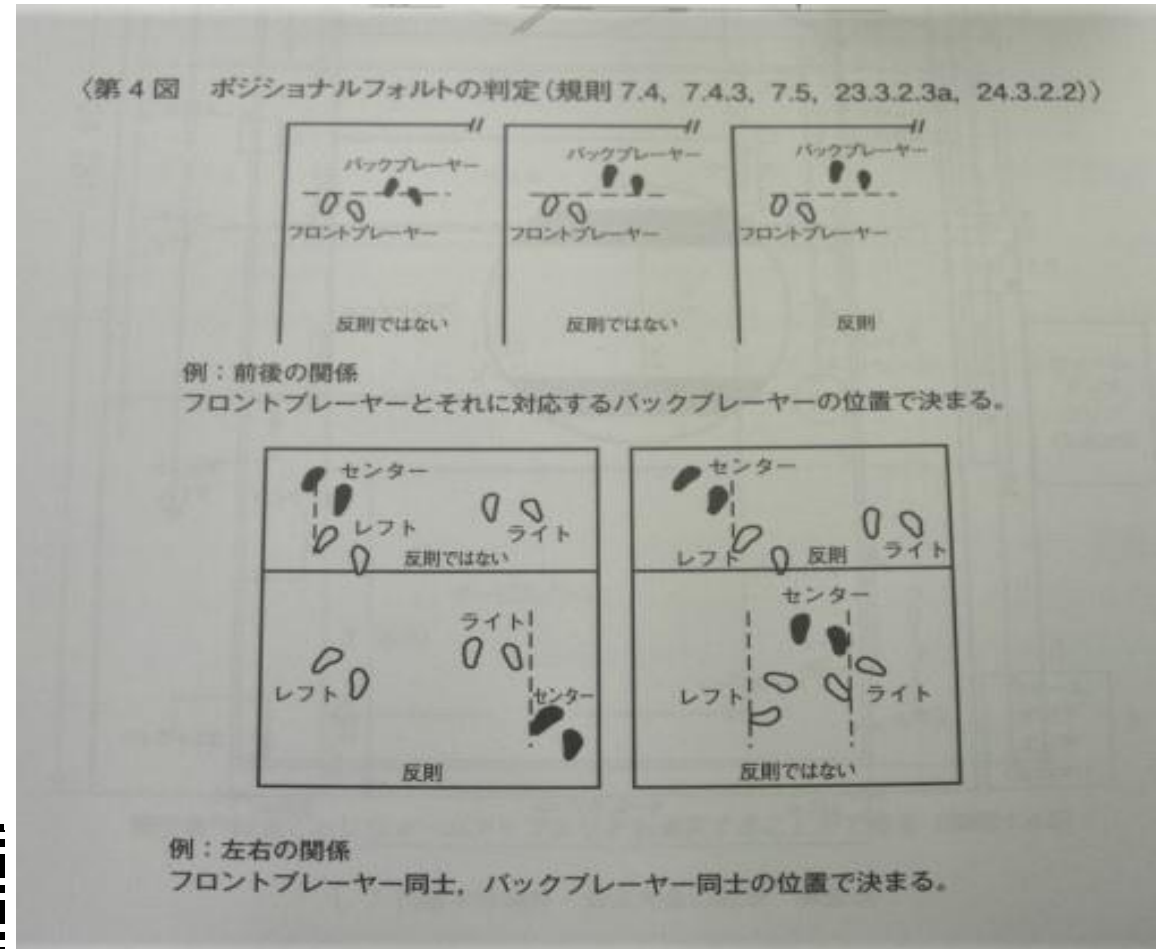
9.3.3 キャッチボールの反則について、上記「ルールの取り扱い」参照

15.2.4 正規の試合中断の連続、上記の「ルールの取り扱い」参照

<2020年度>



<2022年度>



『2022年度の解説』

<上段左>バックプレーヤーの後ろ足の一部がフロントプレーヤーの前足の先より後ろにあるので反則とはならない。  
 <上段中>バックプレーヤーの足の一番後ろとフロントプレーヤーの足の一番前が同じ位置の時も反則とはならない。  
 <上段右>完全にバックプレーヤーが前になったので反則となる。

下段左フロントゾーンでは、センタープレーヤーの右足がレフトプレーヤーの外側の足(左足)より中に残っているため反則とはならない。  
 下段右フロントゾーンでは、完全にレフトプレーヤーの外側の足よりサイドライン側になったので反則となる。  
 下段左バックゾーンの場合も、完全に入れ替わっているため反則となっている。